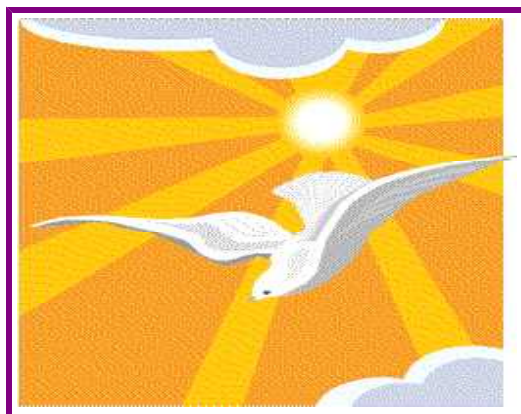


めぐみイエス・キリスト教会

2020年5月31日(日)第五主日礼拝
週報「通算第508号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(各家庭にて)	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝※中止	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年5月31日 第一主日礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌395「主はガリラヤ湖の」 p. 634

【交読文】 No.55 ヨハネの福音書15章 p. 923

【賛美Ⅱ】 新聖歌325「歌いつつ歩まん」 p. 515

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.5 「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き2章1節～8節(新約p. 233下段)

【聖書研究】 《聖霊が降られた日》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 使徒の働き2章1節～8節

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

2:6 この物音がした為、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ

自分の国の言葉で弟子たちが話すのを聞いて呆気にとられてしまった。
2:7 彼らは驚き、不思議に思って言った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。」

2:8 それなのに、私たちそれぞれが生まれた国の言葉で話を聞くとは、いったいどうしたことか。」

●ポイント1. 主イエス様の約束そのⅠ「もう一人の助け主」

※ヨハネの福音書14章16節～17節（新約p.214下段）

14:16「そして私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、その助け主がいつまでも、あなたがたと共にいるようにして下さいます。

14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたと共におられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

●ポイント2. 主イエス様の約束そのⅡ「その方が来ると」

※ヨハネの福音書16章7節～9節（新約p.218上段）

16:7「しかし、私は真実を言います。私が去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、私はあなたがたのところに助け主を遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。

16:9 罪についてというのは、彼らが私を信じないからです。」

●ポイント3. 主イエス様の約束そのⅢ「誰について証しするのか」

※ヨハネの福音書15章26節～27節（新約p.217下段）

15:26「私が父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方が私について証しして下さいます。

15:27 あなたがたも証しします。初めから私と一緒にいたからです。」

◎先週のメッセージの概要【使徒の補充】

《十一使徒は、オリーブ山からエルサレム市内に入って泊まっている家の屋上の間に上がりました。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであったことをルカはあえて書き記しています。

実は、この書き方には特徴があって、二人一組になっています。しかし最後は、三人の名前が挙げられています。この事から、「イスカリオテのユダ」と組んだ使徒は、「ヤコブの子ユダ」であったことが分かります。

その屋上の間に集まっていた百二十名ほどの兄弟たちに、ペテロは、「兄弟たち。イエスを捕えた者どもの手引きをしたユダについて、聖霊がダビデの口を通して預言された聖書の言葉は、成就しなければならなかったのです。ですから、主イエスが私たちと一緒に生活された間、いつも私たちと行動を共にした者の中から、誰かひとりが私たちと共にイエスの復活の証人とならなければなりません。」と、呼びかけたのです。

主イエス様の公生涯の始めの頃から、十二使徒以外に多くの弟子たちが存在していました。ルカは、『主は別に七十人を定め、ご自分が行くつもりのすべての町や村へ、二人ずつ先にお遣わしになった。』と、書き記しています。ここに登場する「七十人」は、別の写本では「七十二人」と書かれてあって、十二使徒プラス六十人であるとも考えられています。

この弟子の中から、バルサバとマッテヤが使徒候補に選ばれたのです。くじをひかせるとマッテヤに当たり、十二使徒に加えられました。

さて十二使徒の使命とは何でしょうか。それは主イエス様の証人になることです。主が十字架にかけられ死なれた事。三日目によみがえられた事。天に上られた事。それを目撃した証人に。そして最後に、「イスカリオテのユダ」についてですが、主イエス様の本当の御心は、彼が滅びるのではなく、悔い改めてご自分の所に戻って来る事であったのです。》

◎お知らせ

※次回第一礼拝は、6月7日(日)で通常通り教会にて行ないます。夜の第二礼拝は6月21日から行ないます。また聖書の学びと祈り会は、6月10日(水)から教会にて行ないます。6月3日(水)は各家庭にて行ないます。